



香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑦⑦

慢性痛とペインクリニック

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について説明してくれるコラム。今回は、「頸椎（けいつい）症」による神経根症状の治療について話をしてくれます。

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に、平成16年から現職。日本麻酔学会指導医、日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

首、肩、腕…そのしびれ、頸椎症による神経根症状かも
多くが薬物療法、ブロックなどによる保存的治療で軽快

中年の方、首を後ろに反らしたり、傾けたりしたときに首の付け根から肩、腕、さらには指先にまで痛みとしびれが走る。こんな症状はありませんか。それは頸椎症による神経根症状かもしれません。

頸椎の椎間関節や椎間板などが変性し、椎間の狭小化や骨きょく形成を生じ、加齢によって起こる頸椎症は、変形性頸椎症と呼ばれます。頸椎症によって神経根が圧迫されると神経の炎症、はれ、血流の悪化などにより、痛み、しびれ、脱力などの症状が生じる頸椎症性神経根症が起こります。

頸椎の神経は脊髄管を通る脊髄から左右対称に8対に枝分かれし、1本1本の神経は固有の皮膚に分布します。例えば腕から親指に症状があるときは第6、人差し指や中指では第7、ひじから小指であれば第8頸髄神経の障害が疑われます。

頸椎症は40〜60歳代に多く発症し、第7頸髄神経根症の頻度が一番多いといわれていますが、2〜3椎間にわたることもあります。初期の症状は頸部痛で、頸椎症の悪化に伴い、痛みやしびれを当該神経根領域（片側）に起こします。神経根症は、頸椎症のみならず頸椎間板ヘルニアで生じ、頸椎症にヘルニアが合併することもあります。

頸椎症の診断は自他覚症状に加え徒手筋力テスト、単純X線写真などが

が可能で、複数の神経根症状を有する場合には特に有用です。

一旦改善しても何度も痛み、しびれが再燃する場合や、筋力低下が進む場合には手術療法も必要となります。また神経根症と異なり、脊髄管が狭くなり脊髄そのものが圧迫されて上肢だけでなく下肢のしびれ、膀胱（ぼうこう）、直腸障害を引き起こすものを頸椎症性脊髄症といいます。この場合、手術療法を必要とすることもあり、適応と時期は脊椎外科専門医による診断が必要となります。

次回からこのコラムは当院の藤井洋泉先生と交互に痛みに関する最新の専門的な話題や治療法を提供します。

この欄のお答えは、梶木病院（北区西花房）の香曾我部先生です。 ☎086(2666)3335

リドカインの点滴も有用で、痛みが軽減しない場合はブロック治療を併用します。圧痛部にはトリガーポイント注射や椎間関節部ブロックを行います。神経根症状が強い場合は腕神経叢（そう）ブロックが効果的です。第5〜8頸髄神経、第1胸神経まで一度にブロック

6(2666)3335